

第2回 学校運営協議会 会議録

開催日時	令和4年10月6日(木) 11:10~11:50	
会 場	本校会議室	
出席者数	学校運営協議会委員 12名	学校 7名
出席者氏名	会 長(北海道教育大学函館校 教授) 委員A(今金町教育委員会 事務局長) 委員B(小川食品代表取締役社長) 委員C(今金町役場総務財政課長) 委員D(社会福祉法人光の里施設長) 委員E(今金商工会事務局長) 委員F(一般社団法人i・スマイル理事長) 委員G(相談支援事業所相談室ひかり相談員) 委員H(今金町保健福祉課主幹保健師) 委員I(今金町農業協同組合 青年部顧問) 委員J(寒昇町内会 会長)	・学校長 飯出 広行 ・教 頭 金子 亘喜 ・事務長 市川 聡 ・教務部長 山本 拓郎 ・総務部長 内田 義文 ・進路指導部長 田中 博昭 ・支援部長 山田 みゆき
次第および校長が意見を求めた事項		学校運営協議会委員の意見
[本日の予定] 1 学校長挨拶 2 商工会事務局長より 3 分科会 第1分科会(校長室) 第2分科会(教育相談室) 第3分科会(会議室) 4 分科会報告 5 学校長挨拶 * 1 学校長挨拶 コロナウィルス感染症は予断を許さない状況ですが対策を講じて教育活動を実施しています。 6月6日に行われた、第1回学校運営協議会の高等部で年次進行される新学習指導要領の理念である、社会に開かれた教育課程の実現の話をさせていただいた。 ①より良い学校教育を通じてより良い社会をつくる目標を学校と社会が共有する。 ②これからの社会を創り出していく子ども達に必要な資質能力が何かを明らかにしそれを学校教育で育成する。 ③地域と連携共同しながら目指すべき学校教育を実現する。この三つをお話しさせていただいた。 地域住民や保護者等が学校運営に参画し実技をとおして目標やビジョンを共有することによって地域と一体となった特色ある学校作りを進めたい。 本校は開校以来地域の方々に見守られながら教育活動を行ってきた。 特に今金町の行政、商工会をはじめとする就労事業のご支援をいただき、生徒が卒業後も今金町において居住して地域で学び、地域で働き、地域で暮らすなど本校の理念である、地域に根ざした学校教育の精神を体现。 これまでの実績を功績がCSの趣旨に合致。少子高齢化、高度な情報化IT化、グローバル化など予測困難な時代が到来。2025年には団塊の世代が後期高齢者となり高齢人口の割合増加、労働人口の減少により労働省の減少		

本校の生徒は労働力として貴重な存在。今後更なる領域の拡大、就労先の開拓が期待。IT化に伴い教育活動のICTの積極的な活用、生徒への情報モラルを含めた情報活用能力の育成が求められる。SDGsの取り組みに代表される、持続可能な社会の実現のためリサイクルや脱炭素（ゼロカーボン）などの環境問題の取り組みも求められている。このような時代動向を踏まえた学校経営を行っていく上で、このCSの役割と機能は重要。この後の分科会で学校経営のご示唆をお願いします。

- 2 商工会事務局長 Fさん
*株式会社 TAISHI 代表
*別紙参照

- 3 分科会
*別紙参照

4 会長挨拶

第2回学校運営協議会、熱心な協議ありがとうございました。私たち委員が専門の立場で知恵を出し合うことだと思います。アイデアが具体化できるようなお手伝いをした。1回目の会議で色々な情報発信してはどうかというお話をさせてもらったが、今回このような形で情報発信できたことはフットワークが軽いと感じた。

5 学校長挨拶

資料にもありますが、本校の良さは寄宿舍で学校と寄宿舍が一貫した教育をしているが、発信力が課題でしたが、新聞記事にあるように、本校を理解していただく機会になった。研修会にも参加、渡島・檜山の特別支援関係の研修会に呼んでいただき講師を派遣し良さを発信。

本校は2年連続志願者減少。本校だけではないが本校の良さをPRしていきたい。

分科会では、現場の方の貴重な話しを聞くことができました。コミュニケーション能力と工夫できる人が求められる。また、自分で命を守る（自己危機管理能力）力を現場が求めていると改めて感じた。作業学習や様々な学習で落とし込んでいく必要がある。

現場の専門家の方に話を聞き、熟議する事が大切だと感じた。

学校経営をより良くするため、皆様のご意見を今後もいただきたいと思います。

上記のとおり会議を開催した。

令和4年10月6日

北海道今金高等養護学校長 飯出 広行

